

水野 智亮

栄町教育委員会

はじめに

龍角寺の文化財について、これまでの指定経緯をおさえつつ、保存・活用の現状を紹介し、課題を整理した上で、今後の計画に資する具体的なアイデアを提示したい。

1. 龍角寺の文化財

龍角寺では、現在、国指定重要文化財の薬師如来坐像、国指定史跡の塔趾、県指定文化財の出土遺物（創建期の瓦および鎌倉時代初期の銅製経筒など）が、文化財に指定されている。

また、龍角寺に関する近世の古文書類が、龍角寺区有文書として残され、2019年に町指定文化財に指定された。

この他に、指定が今後望まれる文化財としては、薬師如来坐像を安置するため近世期に製作された厨子や、昨今の早稲田大学による発掘調査によって出土した塙仏、個人蔵の小金銅仏などが挙げられる。

上記のように、保存活用すべき多くの文化財があるが、本稿では特に、昭和初期から保存への取り組みがなされてきた薬師如来坐像と塔趾に焦点を当てていくこととする。

2. 文化財の保存の現状

薬師如来坐像と塔趾は1931年10月に刀根住職のもとを訪れた氏家重次郎（建築士）によって見出され（氏家1934）、1933年に薬師如来坐像が国宝に、塔趾が国史跡に指定された。

保存施設の整備は、国史跡に指定されて間もなく、まず塔趾において着手される。1933年10月に文部大臣より奨励金が下付され、保存

施設（石柵）が翌年5月に竣工し、一方の薬師如来坐像の保存施設は戦後になって建設された。1950年3月に、安食町・安食町龍角寺国宝保存会によって寄進が募られ、同年5月に起工、翌年3月に保安殿（現：奉安殿）として竣工した。なおこの間1950年5月に、文化財保護法が制定され、同法の規定により同年8月に薬師如来坐像は重要文化財に指定されている。

1990年に、奉安殿の老朽化から、国庫補助を活用し、新たに収蔵庫の建造を計画したが、諸所の事情により、頓挫してしまう。

その後、2011年3月に東日本大震災が発生し、龍角寺の境内では、塔趾保存施設の石囲い部分が一部崩落、奉安殿には内部に亀裂が走るなどの被害が出た。

震災に先立つ2009年に龍角寺創建1300年記念事業が執り行われており、記念事業の発起人をはじめとする檀家総代や、栄町観光協会が中心となり、2012年7月に龍角寺復興委員会が立ち上がる。

現在も薬師如来坐像と塔趾の保存施設は震災の爪痕が残ったままの状況であるが、地区では、龍角寺境内の清掃作業が月1回（毎月第2日曜日）行われ、塔趾や奉安殿の周りも含めた境内全体の美観が保たれている。

また、薬師如来坐像の光背と台座が、震災によって毀損していたが、2013年度に国庫補助を活用し、修理が行われた。

3. 文化財の活用の現状

薬師如来坐像は、お寺の仏事として、お盆やお正月に御開帳がある他、教育委員会事業とし

て、毎年11月3日（文化の日）と、春（3月末～4月初め）の岩屋古墳公開事業、そして町内小学校の校外学習時に御開帳の機会を得ている。

栄町教育委員会では、2012年度から、町内外からボランティアを募集する「文化財サポーター制度」を開始しており、サポーターは、研修や実践を積み、公開事業や校外学習時ににおいて活躍している。

ご開帳日以外においても、主に土日祝日に、文化財サポーターの有志によるガイドが2017年から行われており、5年間で延べ4,000人以上を案内してきた。

薬師如来坐像の展示は、千葉市美術館（2013年）、奈良国立博物館（2015年）において行われており、今回の早稲田大学會津八一記念博物館企画展での公開は3回目にあたる。

また、境内には、薬師如来坐像及び塔趾の案内解説板を整備している。2008年度に成田国際空港振興協会・NAAグループの協力を得て設置したもので、2020年に英語の解説板を増設した。

4. 保存の課題

薬師如来坐像及び塔趾共に、保存施設が倒壊する危険性をはらんでいる。そのため、保存施設の改修や改築などの対応が重大な課題として残されてきた。

薬師如来坐像の奉安殿については、改修か、同地点での改築か、場所を替えての建替えか等、どの程度の施工で十分なのか、費用面も踏まえての検討が必要な段階にある。

また、塔趾の保存施設については、石囲い部分を安全な形で復元できるのか、反対に全て撤去するのか、基礎部分から新たに保存施設を設けるのかを改めて検討する必要がある。

5. 活用の課題

薬師如来坐像は普段、近世期の厨子の中に安置されている。東日本大震災を受けて、厨子が前方に傾斜し、校外学習の機会などにおいて、間近で拝観することが困難な状況にある。

塔趾の保存施設は、石囲い部分が危険な状態であることから、パーテーション（縄ロープ）の外側からの見学をお願いしている。

文化財サポーターの有志によるガイドでは、コロナ禍の感染状況によっては、活動を休止せざるを得ない場合も発生している。

6. 今後の計画に資する具体策

課題は多くある中で、保存と活用に係る計画を作成できていないのが現状である。そのため、担当者の意見に留まるものではあるが、現時点で考えている具体策を短期・中長期に分けて示したい。

まず保存面であるが、短期的には保存施設の課題と対策を整理する。中長期的にはクラウドファンディングを始めとする寄付の方法を積極的に検討することで費用面のハードルを下げ、適切な保存施設の整備につなげたい。

活用面については、短期的には、ボランティアガイド等を補うものとして、既存の解説版等からアクセスできる音声ガイドやYouTube動画を公開する。中長期的には、塔趾においてAR（拡張現実）技術を駆使した三重塔の再現や、境内全体に視野を広げ、3D測量のデータや金堂の復元図等の早稲田大学の研究成果をもとにした境内の再現など、デジタルによる活用を検討していきたい。

おわりに

龍角寺における文化財の保存および活用は、御住職の御協力のもとに行われてきた。そして、多くの課題を解決するためには、寺院と関係教育機関、地域住民との連携が重要である。文化財を保存・活用するため尽力されている方々の間の協力関係が維持され、そして、更なる関係が築かれるように、行政としての務めを果たしていきたい。

引用文献

氏家重次郎 1934「史蹟上から見た龍角寺」『史蹟名勝天然記念物』9-10